

庄内協同ファームだより

No.176 2019年1月号



発行/
〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
<http://www.shonaifarm.com>



羽黒山 大鳥居
平成30年11月に26年ぶりに老朽化の為建て替え。
高さ 23.8m 笠木の幅 31.6m 従来よりひとまわり大きい。

早いもので2018年があつという間に過ぎていきました。災害の少ない山形県庄内地方でも8月までは日照りその後は3回の大雨と度重なる台風、12月中旬には大雪となり極端すぎる天候で仕事にも生活にも影響がありました。

今年は平穏な年になってもらいたいものです。ここ数年の異常気象の恒常化で皆様に安定的に農産物をお出しする事が難しくなっておりますが自然の恵みを享受しながら仕事をする私たちにとって、四季があり季節のうつろいを感じる事の出来る農業は素晴らしい職業だと感じています。

庄内協同ファームは今年で設立32年になります。人間で言えばバリバリ動ける年齢です。今年も皆さんいろいろな形でキャッチボールしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

今年の10月から消費税率が改定になり軽減税率が導入される予定です。食料品は8%、他の物は10%になる訳

ですが、改定に伴って消費が減退し景気が悪くなるのではないかと憂慮しています。庄内協同ファームの柱の二つである米の消費は年々減少している中で、それに拍車がかかるのではないかと心配します。「ごはんは日本人のエネルギー」だと思ふのでたくさん食べてもらいたいものです。

去年の4月主要農作物種子法が廃止されました。突然の事で驚きました。すぐに何かが変わるわけではないと言われていますが、日本の主要農作物の種子に関する重要な法律が、あつてなく廃止されてしまったことに危機感を抱いています。日本の食と農の未来に関する大きな問題と考えています。野菜の種は40年ほど前はほぼ国産でしたが、今では大手種苗会社の参入もあり大半が輸入に頼っているのが現状です。これと同じような事が米などでも起きるのではないかと心配されます。又、近年はマイクログラスティックが問題となっております。プラスチック製品の投げ捨てにより、それが海に流れ、細くなる事によるものです。その数量は毎年増え続けています。それを魚が食べて、その魚を人間が食べて知らないうちに「マイクロプラスチック」が体内に取り込まれる可能性があります。健康被害等の報告はまだないのですが今のうちに対処しておかないと大変なことになると思います。みなさんと一緒に考えていきたいものです。

今年は平成から新しい元号に変わる訳ですが、どのような元号になるのか今から楽しみです。

庄内協同ファームは今年の干支である猪のように勢よく進んでいきたいと思ふのでよろしくお願い致します。

代表理事 今野裕之

あけましておめでとうございます。

新春企画として「父子対談」と題して、一昨年から結婚を機に、奥様のご実家での就農をスタートさせた忠鉢徳弘さんと、義父である芳賀修一さんから、今の心境と今後の夢などについてお話しをうかがってきました。



新春 父子対談!!

(ち) 忠鉢さん／(は) 芳賀さん／(編) 紀子・紀允・みずほ

(編) 忠鉢さんが就農されてから、どれくらいになられますか？

(ち) 一年以上は… (は) 丸二年だね。

(編) 前職 映画館での職場結婚された奥様(芳賀さんの娘さん)のご実家に就農されたわけですが、自分が農家になるっていうことは結構すんなり受け入れられたんですか？

(ち) お義父さんからも奥さんからも農家をやってくれとは三言も言われてないですね。

(同) へえー!!

(ち) 前やつてた仕事も中途半端だったんで、なんか手に職をつけたいというのもあったんで。

何も技術とか持ってなかったし、資格とかは持ってたんですけども忘れちゃって…。で、やらせてくれて。

(編) 自分から？

(ち) はい。で、仕事辞めて。結婚してなかったら農家やってなかったと思います。

(編) じゃ、奥様の家業が全然違っていたら？

(ち) 漁師だったら、漁師(笑)

(編) 違うジャンルにチャレンジしてみたかった、みたいな。(ち) それもありますね。年取ってから農業を始めたいで、20〜30代の人よりは習得はゆつくりですけど。機械操作も慣れてくる頃に使い終わって、次のシーズンになると忘れちゃって。その繰り返し。難しいなーと思って。やっぱりメモとか日記つけないと忘れると思って。

(編) じゃあ、毎日農業日記みたいなもの書いてるんですか？

(ち) お義父さんからも書くように言われてたんです

けど。新規就農の次世代育成資金をいただいている関係で、一日の勤務時間や作業内容を細かく書かなきゃいけない。

(は) 次世代育成資金は、自立した経営者への資金なので、今年から我が家の経営内容を忠鉢くんと私で農地を半分ずつに分けたんですよ。忠鉢くんが水田(2町歩)と枝豆、私の方は水田(2町歩)と枝豆、柿と干し柿。あと笹巻きもちょうとだけある。

(編) 名義上は分かれているけど、農作業は一緒にやっているんですか？

(は) 田植えとか枝豆なんかは一緒に農作業だったりするわけだけど、田んぼの水管理とかは担当で分かれてる。分かれてる



忠鉢徳弘さん

けど、私が仕事してもらってる方が多いかもしれない(笑)ただ、売り上げと経費はきちんと区分する。機械も含めて共同で使ってるものも多いからちよつとややこしいんだやなア。最終的には、売り上げを面積割りにしてるかな。

(編) お義父さんとしては、忠鉢さんから農業やってみたいて言われた時は、どう思われました？ 思いがけずみたいな事だとは思ってんですけども。

(は) うーん(笑) あーしめたっ！(て(笑) 自分の子供たちは農業してないからの。継いでくれてありがたいという気持ちは基本的にはあるよの。自分としては体力は落ちてきてるし、農業以外の仕事も忙しくて、困ったなアと思ってたんで。

「あー農業やる人間が現れた！」(て。

(編) うれしいですね。何か忠鉢さんに伝えていきたいなと思ってることはありますか？

(は) 伝えられることは全部伝えたいんだけど。

(編) 普段の生活は別々なのですか？ (ち) 別々。

(編) 食事とかも別々？ (ち) 食事は一緒。

(は) 昔の協同ファームの加工場だった建物の2Fに住んでるな。見たことはないですけどの。

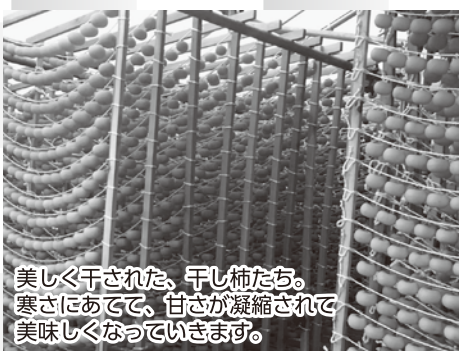
(編) では、芳賀さんから忠鉢さんへのエールを。

(は) やりはじめたことだから、まず一生涯やってほしいな。農業で生活していくのはそんなに簡単ではないけども、自立、独立した経営感覚を持つてほしい。家族経営だから当面は一緒にやりながら、伝えられることは全部伝えて。将来的には、田ん



芳賀 修一さん

ぼも経営も完全に預けますよ。年取っても出来る仕事もあるので、私ら(夫婦)にその辺は残してもらつて。忠鉢くんが来てくれたことによつて世帯が増えているわけだから、増えた世帯分の所得を増やすなり規模を拡大するなり、別の事業を起こすしかない。今のままでは食えないでしょ。将来的には、外部からの委託も増えてくるだろうし。



美しく干された、干し柿たち。寒さにあてて、甘さが凝縮されて美味しくなっています。

徐々に農作物とだけではない、人と村とのつきあいも出てくるから、その辺を上手くやってほしいな。遠い将来はわからない。農業を家族経営でやるのが本当にいいのか？会社にした方がいいのか？わからねえな。



枝豆圃場にて 芳賀さん夫妻

(編) 正解はないです。すよね。忠鉢

さんは、お義父

さんに聞いた

こと、言いた

いことなんか

ありますか？

(ち) 作業に関して

義父は先生な

ので。慣れない

うちは、言われ

たことをやる…。

そうしないとだめだと2シーズンやってみてそれは思いましたし、今年みたいに天候に左右されるじゃないですか。今年は失敗ばかりして、鴨に脱走されて、追いかけてまわしてました。

農業で何が主流になるのかわからないですからね。集まりとか行くと、方向性とかも皆違うことを言うじゃないですか。正解が無いというのが当たり前なのかもしれないですけど、流行に乗った方がいいのか、昔からあるものを守っていたらいいのか。まずは生活できなくなるようなことをしたらだめだなーと思って。

(編) 悩みますよの。世の中の流れをつかまな過ぎて

もだめだし、振り回されすぎてもだめだし。これから遠い未来じゃなくてもチャレンジしたい！変えたい！ということがあれば。

(は) やつぱり積み重ねなので、今年上手いかなかったことの原因が何なのかを考えて、来年はもっと収量が上がるようにしたいな。

(編) 映画館の経験を生かしてポップコーンを作ってみてはどうですか？

(ち) それだと違う仕事になりそうなんで(笑)

(編) それでは、とにかく今はお義父さんから引き継げる仕事に慣れていつて。

(ち) そう、まずは慣れていつてからじゃないと。新しいことはそれからですね。

編集あとがき

お話をうかがった芳賀家の加工場は、庄内協同ファームの草創期、若者達が知恵と情熱をぶつけて、お餅や会社を創り上げていった思い出の舞台でもあります。今回、突撃取材訪問にもかかわらず温かく迎え入れてくださり、ありがとうございました。

取材当日、芳賀家の加工場では、奥様の和子さんが庄内柿の干し柿づくりで忙しく作業しておられました。昔から変わらない風景は、それを止めずに作り続ける努力をしてきた人がいるから今も私達の胸を打つのだと、美しく干された柿たちには見とれていました。

全くの他業種からやってきた忠鉢さんには、自然の中で匠の業を当たり前に積み重ねて生きる農家の生活は、豊かで新鮮に感じたのかもしれない。

義父芳賀さんの業をまっすぐに受け止めようと努力する忠鉢さんと自分が培ってきたすべてを伝えたいと願う修一さんの姿は、お互いを認め合い尊重し合う理想の親子のように私たちには映りま

した。慎重に積み重ねていく姿勢がお二人の中でシンクロしているのだと思います。



今出来ることを大切に引き継ぎながら、内に秘めた情熱がいつか庄内柿のようにつく熟していく日を夢見て、新しい年が実り多い年となりますように！



1月 餅つき交流会



2月 生産者集会



5月 田植え交流会



庄内協同ファーム 写真で見る 2018年



7月 庄内浜ツアー



10月 稲刈り交流会



11月 各生協まつり



あとがき



去年は、改ざん・偽装というフレーズがマスコミで取り上げられる事がとりわけ多い年だったように思います。また付度と云う普段聞き慣れない二文字も話題となりました。特に森友問題では、霞が関の最強官庁と云われる財務省の文書改ざんや国の安全を担う防衛相の日報隠蔽等、行政機構が安易に改ざん・隠蔽するその姿勢や倫理観は全く持つて腑におちません。更に日本を代表する世界的な自動車メーカーの無資格者による完成車両の検査等、日本が誇る一番の勤勉性・信頼性である事の安心や安全神話が揺らぐ出来事が多く見受けられるようになったと思うのは私だけでしょうか。11月に入ると、超ド級のニュースが届きました。日産をどん底から再建したと言われたカルロス・ゴーン氏が逮捕されました。その後の報道では、ある意味会社を私物化していた内容が次から次へのオンパレード。高額報酬には賛否あるにしても、確か社員のリストラは2万人規模との事。(地元庄内町の人口が2万人強)リストラだけが再建策では無かったとしても首切りが本当の再建策なのだろうかと当時から思っていました。今年は、特に霞が関を始めとする行政機関の不祥事報道だけは聞きたくないものです。無理かな?。

(好)